

【日本の大学】第51回——中央大学：生きる実地応用の伝統

中央大学は東京都の西部、八王子市に本部を置き、現在8学部、大学院7研究科、専門職大学院2研究科、ほかに9研究所、4附属高等学校、2附属中学校を擁する私立の総合大学である。設立は1885年でイギリスの法律を学ぶ「英吉利（イギリス）法律学校」としてスタートした。創立者は増島六一郎、高橋一勝、岡山兼吉、菊池武夫など18人の少壮法律家である。



中央大学のメインキャンパスである多摩キャンパス

英国法律学校がスタート

維新を経て世界に門戸を開いた明治時代の日本は文明開化のスローガンの下で急速に西洋化が進み、法律面では近代的な法体系を持たなかったため、欧米先進諸国のような法律を学ぶ機運が大いに高まっていた。その中で、増島たちの法律家仲間には、欧米列強の模範国としての地位を占めていたイギリスのような慣習法の国をモデルとして、実社会と密接に結びついた英米法を学ぶことが法の実地応用への最良の道であるとの信念を抱いていた。

教育に当たっては、抽象的な体系よりも具体的な実証性を重視し、実地応用に優れた人材を育成するために、イギリス法の全科を教授し、そのために必要な講師の充実や、書籍の刊

行、図書館を開設することなどを設立趣旨に謳った。そうした趣旨を映して建学の精神として「實地應用ノ素ヲ養フ（法の実地応用の道を学ぶ）」を掲げ、法学教育を通じて近代社会にふさわしい人材、特に法律家の育成を目指して立ち上がった。



多摩キャンパスに残る中央大学を象徴する「白門（はくもん）」

以下、中央大学のホームページなどから、大学の歴史や歩み、現状を概観しよう。

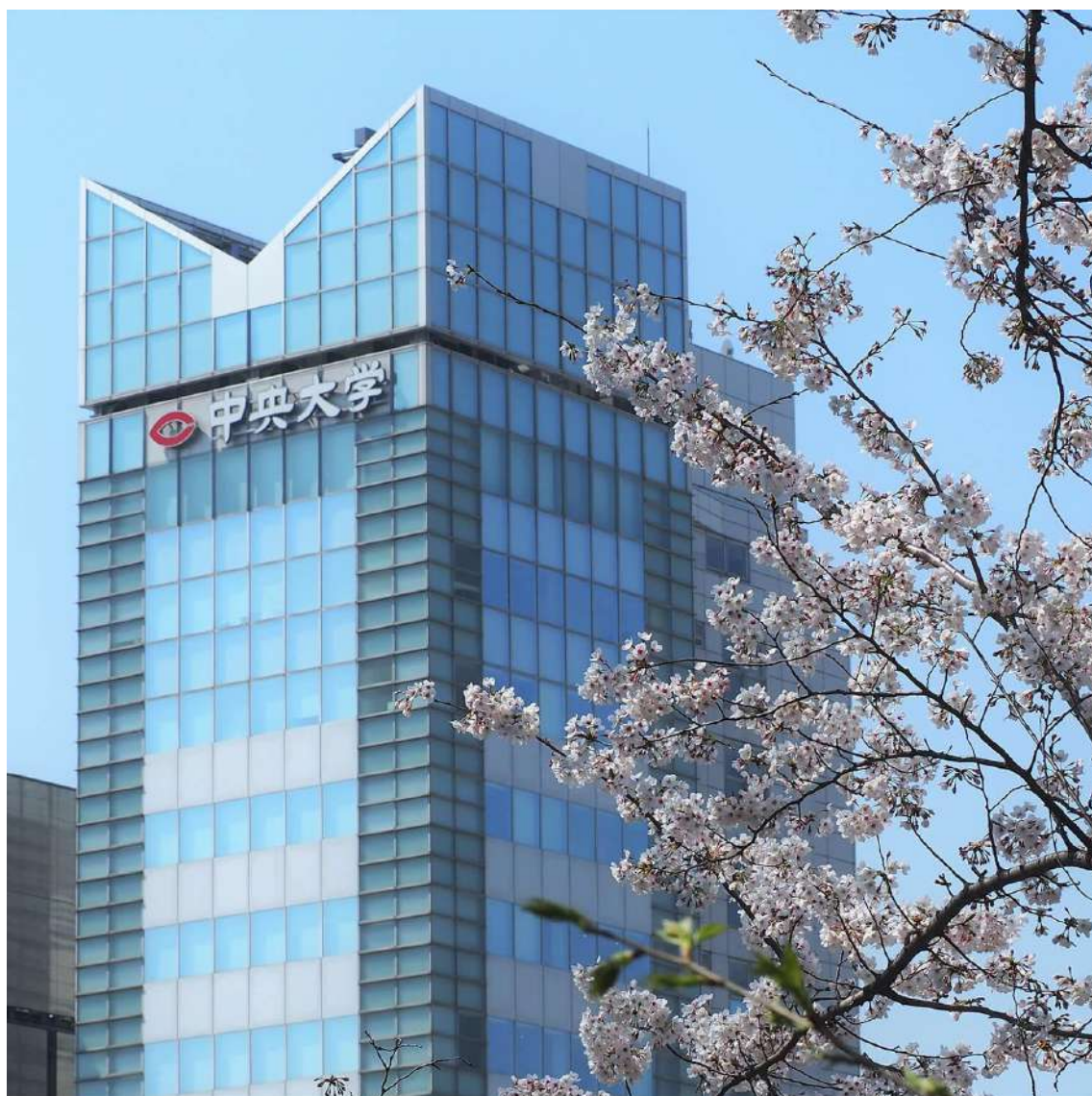
創立した18人は、明治維新後、全国各地から東京に集まった若い法律学徒で、現在の東京大学の前身校で実証性を重視するイギリス法を中心に法律を学んだ。その後ある者は、英米のロースクールに留学して弁護士資格や法学士号を取得し、ある者は国内で司法省の官僚や大審院の判事を務めていた。

各々の道を歩んでいた創立者たちは、実証性を重んじるイギリス法に基づいた教育機関の設立を掲げて力を結集した。設立された場所は、東京・神田区神田錦町の旧旗本蒔田家の屋敷内だった。約800坪（2640平米）の敷地にあった家屋300坪余（約1000平米）を教場として使った。初代の校長に増島が就任した。設立された1885年7月8日は中央大学の創立記念日となっている。

設立から3年余の1889年1月には凹字型のレンガ造り2階建ての新校舎が完成、その年の10月には幅広い法学教育を目指して校名を東京法学院と改称した。1892年、神田大火により校舎が全焼、法律文庫など貴重な財産を失ったが、神田一ツ橋の帝国大学講義室に仮教場を設けて、校舎再築まで授業を続けた。1903年には、社団法人東京法学院大学が設置を認可され、専門学校令によって東京法学院大学と改称した。1905年には校名を中央大学に改め、経済学科を新設した。1909年には新たに商業学科が加わり、法学、経済学、商学の3学科を有する大学となった。

1917年には、失火のため再び校舎と図書館を全焼したが、翌18年に校舎を再築することができた。1920年に大学令による中央大学の設立が認可され、法学部、経済学部、商学部の3学部と、大学院・大学予科を持つ旧制大学の体系が整った。1923年には関東大震災によってまたも校舎を焼失、これを機に、神田錦町から神田・駿河台へと移転、以降半世紀余はこの地に拠点が置かれ、充実発展が図られた。

第2次大戦後の1949年、学制改革に伴って新制大学として発足した。法学部、経済学部、商学部（それぞれ昼間部と夜間部）と、1944年に設置された工業専門学校を廃止して新設した工学部を加えた体制で発足した。1951年には文学部が置かれ、法・経・商の3大学院の研究科が置かれた。1962年には工学部を理工学部へ改組している。



市ヶ谷田町キャンパス

「法科の中央」の伝統

1978年には施設拡充計画に基づいて文系4学部（法、経済、商、文）を多摩校地に移転した。理工学部は後樂園キャンパス（文京区春日）を増築して対応した。

1993年には新たな学部として総合政策学部を多摩キャンパスに開設。その後、学部新設はなかったが、2019年になって国際経営学部（多磨キャンパス）と国際情報学部（市ヶ谷田町キャンパス）を開設している。

これら8学部の中で、設立の経緯やその後の歴史や伝統の点からも大学の代表学部は法学部であると言えよう。司法試験の合格者は全国の私立大学の中で常にトップクラスにあり、これまで法曹界をはじめ官界、政界、実業界などに多くの人材を輩出。「法科の中央」との呼び名は今も生きている。

現在は法律学科のほか、国際企業関係法学科、政治学科の3学科からなり、すべての学科において、外国語習熟度別のクラス編成、海外留学の支援などの採用、国際的視野で考える能力を身につけるための科目の設置など、国際化に対応するよう教育内容・方法を整備している。少人数の演習での教育を充実させ、論文作成、問題の発見解決、ディスカッションなどトレーニングを実施している。

経済学部は1905年設立で、法学部に注ぐ歴史を持つ。情報化、国際化、少子高齢化、地方分権化、環境重視といった社会動向に対応するため、経済学科のほか、経済情報システム学科、国際経済学科、公共・環境経済学科の4学科を設けている。教育の軸として重視しているのは「ゼミナール」教育である。教員の研究成果を学生の教育に還元し、学生は興味のあるテーマを2年次から4年次まで3年かけてじっくり研究し、問題の本質に迫る。



多摩キャンパス学部共通棟

商学部も歴史があり、公認会計士試験合格者数では全国の大学の中で上位を占めている。基本的なテーマに即して、経営学科、会計学科、商業・貿易学科、金融学科の4学科を設置している。学科間の垣根はできるだけ低くし、相互に学べるようにカリキュラムを工夫している。2022年度には商業・貿易学科を「国際マーケティング学科」に名称を変更する。

理工学部は、10の学科があり、多様な学びの場を提供している。数学科、物理学科、都市環境学科、精密機械工学科、電気電子情報通信工学科、応用化学科、ビジネスデータサイエンス学科、情報工学科、生命科学科、人間総合理工学科である。グローバル化に力点を置いており、英語のカリキュラムの充実や理工学部独自の短期留学プログラム、グローバルインターンシップを拡充している。

文学部はそれまでの5学科を2006年に人文社会学科1学科として、異なる学問分野を有機的に連携しやすくした。少人数教育を徹底し、家族的な雰囲気の中できめ細やかな教育を特色にしている。

1993年に誕生した総合政策学部は、人文科学、社会科学、自然科学、工学およびその他の関連分野など複数の学問領域の知見を活用し、多様な視点から問題にアプローチする。政策科学科と国際政策文化学科で構成。政策科学科では、法学、行政学、政治学、経済学、経

営学といった学問領域を、国際政策文化学科では、文化人類学、歴史学、宗教学、倫理学、言語学といった学問領域を学ぶ。国家間の経済摩擦や、民族間紛争、少子高齢化や社会保障、働き方改革、災害や都市政策、環境問題、組織の不祥事、スポーツと文化交流など、多種多様な社会問題を扱う。少人数のゼミナールを中心とした教育を特色にしている。また、英語を含め10の言語を学ぶことのできる国際性の高い学部でもある。

2019年に新たな学部として加わった2学部のうち、多磨キャンパスに設置された国際経営学部は、経営学、経済学に関する理論と関連領域の教育研究を通じて、企業経営やグローバル経済に係る専門知識と高い語学運用能力を持ち、国際社会を舞台に活躍できる人材を育成することを目的に設立された。「世界を動かす人になろう。(Be Ahead of the World)」というスローガンを標榜している。



後楽園キャンパス

都心回帰へ中長期計画

もう一つの国際情報学部は東京・新宿区の市ヶ谷田町キャンパスに新設された。理念として『情報の仕組み』と『情報の法学』の融合を掲げ、来るべき新たな社会において不可

欠な知識やスキルを養うカリキュラムを設けている。新たな社会が抱える課題の解決には、情報技術によるアプローチと情報を取り巻く法律・ルールによるアプローチの両方があるからである。以上二つの専門性に加え、国際舞台での活躍に必要な英語力、論理学や宗教学に裏打ちされた異文化理解の素養が必要であるとして、カリキュラムとして補っている。

国際交流は、新型コロナ禍にあつて多大な影響を受けているが、外国人留学生は2021年5月現在、中国527名、韓国88名など計677名を受け入れている（大学院を含む）。外国人留学生に対しては毎年3月下旬～4月上旬にガイダンスを実施、在留資格に関すること、学費の減額・奨学金などの説明会を実施している。新入留学生の歓迎パーティーやスポーツ大会が開かれたり、中央大学のお祭りである「白門祭」に留学生会がそれぞれの母国の屋台を出店したりするなどの交流が図られている。毎年1回、春期休暇に合宿形式の平和セミナーも実施、外国人留学生も参加している。

中央大学では2015年度に向こう10年を見据えた中長期事業計画を策定した。その中で、法学部を中心に、東京・西部の多摩キャンパスから東京都心（23区内）へ移転する方針を打ち出した。計画の半分以上を過ぎた2021年には、更にその方向を加速させ、2023年に法学部の1～4年生の収容定員（5756人）を文京区大塚1丁目の茗荷谷キャンパスに移転するとした。



多摩キャンパス内のフォトスポット

大学全学部の学生数は、25008名（女性9553名）、大学院在籍者数は1085名（女性267名）などとなっている。教員数は大学の専任教員が733名である。（以上2021年5月現在）

学長は河合久氏である。1981年中央大学商学部卒、83年同大学院商学研究科博士前期課程修了、他大学専任教員を経て96年商学部助教授、2000年教授。2011年には商学部長、18年副学長などを経て2021年5月に学長に就任した。専門分野は会計学、経営学、情報ネットワークである。

文：滝川 進

写真：中央大学HP & FaceBook